## 構造計算適合性判定 指摘事例集 -よくある指摘事例とその解説 - 2021 年版 「正誤表」(2023 年版)

ページ	行	(誤)	(正)
3.1.4-2	27	各荷重時の曲げモーメント分布を図―2	各荷重時の <u>第1層の</u> 曲げモーメント分布を
		に示す.	図一 <u>3</u> に示す.
3.1.4-2	36	つまり、柱端モーメントに関しては、鉛直	つまり, 柱端モーメントに関しては, 鉛直荷
		荷重時と地震荷重時で十数%違うという	重時 <u>は</u> 地震荷重時 <u>の十数%である</u> . <u>ここで</u>
		<u>ことである</u> . <u>また,</u> 軸方向変形を無視して	<u>は</u> 軸方向変形を無視しているため、外柱の
		いるため,外柱 <u>に対する</u> 比 $m_{VH}$ は均等ス	<u>曲げモーメント</u> 比 m <sub>VH</sub> は均等スパンであ
		パンであれば多スパンになっても同じで	れば多スパンになっても同じである. 多ス
		ある. 多スパンの高層骨組において, <u>柱の</u>	パンの高層骨組において, <u>柱軸方向変形考</u>
		曲げモーメントに対する比 m <sub>VH</sub> が十数%	<u>慮の有無により鉛直荷重時の柱曲げモーメ</u>
		異なった場合、柱軸方向変形の影響を考慮	ントが 20~30%相違したとしても,鉛直荷
		しても長期荷重時の柱曲げモーメントの	重時と地震荷重時の柱曲げモーメント比
		相違はさらに小さくなり、結果として柱軸	<u>m<sub>VH</sub>が十数%であれば,</u> 短期荷重時の柱の
		<u>方向変形の影響による</u> 短期荷重時の柱の	曲げモーメントの相違は数%にすぎないこ
		曲げモーメントの相違は数%にすぎない	とになる. また, 同様に梁の曲げモーメント
		ことになる. また、同様に梁の曲げモーメ	の相違も数%にすぎないことになる.
		ントの相違 <u>は</u> 数%にすぎないことになる.	
3.1.6-3	9	$a_y = (0.043 + 1.64 np_t + \underline{0.43}a/D$	$a_y = (0.043 + 1.64 n p_t + \underline{0.043} a / D$
		$+0.33 _{70})(d/D)^2$	$+0.33 \ 7 \ 0)(d/D)^2$
3.2.1-5	四角	$P_2 \times (4 \times 1 + 3 \times 0.75 + 2 \times 0.5 + 1 \times 0.25) \delta = \underline{9.75} P_2$	$P_2 \times (4 \times 1 + 3 \times 0.75 + 2 \times 0.5 + 1 \times 0.25) \delta = \underline{7.5} P_2 \delta$
	内 11	δ	
3.2.6-1	図-1	C = C+d	C = C + dC
		$M \subseteq Q \cap Q \cap M+d$	$M \subseteq Q \cap \bigcup Q \cap M + d\underline{M}$
		$T \longrightarrow T+d$	$\leftarrow$ $T \leftarrow T \leftarrow dT$
			$\perp_{dx} \perp_{dx} \perp_{T+a\underline{T}}$
3.2.6-3	図-4		
		曲げモーメント	曲げモーメント図
		700 F (SAN)	_
		檢定断面 <b>→ 検定</b> 断面	カットオー第4が
		カットオン新Cが 不要となる勘面 	カットオン第Cが
		カットオフ筋と カットオフ筋C	カットオン筋査 ld d以上 カットオン筋C
		□ ldc □ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
		A A'	A A'

3.2.6-3	17	$Q_{su} = \begin{cases} \frac{0.053p_t^{0.23}(F_c + 18)}{M/(Qd) + 0.12} \end{cases}$	$Q_{su} = \begin{cases} \frac{0.053p_t^{0.23}(F_c + 18)}{M/(Qd) + 0.12} \end{cases}$
		$+ 0.85 \sqrt{p_w \sigma_{wy}}$	$+ 0.85\sqrt{p_w\sigma_{wy}}$ $bj$
3.2.6-4	18	付着信頼強度式は「図-3 付着割裂パタ-	付着信頼強度式は「図-3 付着割裂パター
		<u>ン</u> 」の	<u>ン</u> 」の
3.2.6-5	4	$K_{st}=140A_w/(db_{\underline{s}})$	$K_{st}=140A_w/(d_{b}\mathbf{S})$
3.2.6-7	⊠-7 (A)	曲げモーメント図  通し筋 {	曲げモーメント図  通し筋 {
3.2.6-7	⊠-7 (B)	カットオフ筋が計算上不要となる断面 M' 曲げモーメント図 通し筋 カットオフ テンションシフト 2段目鉄筋の引張力 A2Oy A1O C d l'	カットオフ筋が計算上不要となる断面 M' 曲げモーメント図 通し筋 カットオフ テンションシフト 2改目鉄筋の引張力 A2Oy A1Oy d l'
4.1.1-3	6	$\Sigma_c M_{pn} \ge \min\{1.5_b M_p, 1.3_{\underline{b}} M_{pn}\}$	$\sum_{c} M_{pn} \ge \min\{1.5_b M_p, 1.3_{\underline{p}} M_{pn}\}$
4.2.3-2	14	(4) 壁厚 (t) と梁幅 ( <u>B</u> ) が曲げせん断剛 性増大率に及ぼす影響: α <sub>3</sub>	(4) 壁厚 (t) と梁幅 ( <u>b</u> ) が曲げせん断剛性 増大率に及ぼす影響: α <sub>3</sub>
5.3-1	11	Terza <u>y</u> hi	Terzaghi